

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した  
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業  
＜令和元年度 事業計画＞

# 協働による 「かみかつ茅葺き学校」 の展開

特定非営利活動法人 郷の元気

2019.5.9

# ①取組で目指す地域像

## 2022年度末 地域の状態

- 山の資源が活用できている
  - －茅葺き学校が「恵みの食」と「循環の暮らし」の体験と発信の拠点となっている
  - －ゼロ・ウェイストな暮らしの体験と発信ができている
- 若者をはじめとした幅広い年代が集落に居住している
  - －若者が居住し、仕事や子育てができている
  - －若者が居住し、神事や出役を担っている
- 地元の人が地域の良さに自信を持っている
  - －地域内外の人が共に汗を流す「共感体験」ができている
  - －外部からの評価が見える形で地元伝わっている

## 2019年度末 地域の状態

- 茅葺き学校が「恵みの食」と「循環の暮らし」の体験と発信の拠点となっている
  - －「茅葺き学校」を年間8回実施し、若い親子の八重地ファンができている
  - －SNSやWEBでの情報発信を強化し、若い世代に八重地の魅力が伝わっている
- 若者をはじめとした幅広い年代を対象とする「てまがい」プログラムを実施し、協働人口を獲得している
  - －集落の相互扶助を表す「てまがい」という名称で、茅葺き民家・花野邸の施設維持支援作業や、集落の作業支援を担うボランティア等を募集し、地元の人々の労働力を補っている
- 茅葺き学校を通し、地元の人に地域の価値が理解されている
  - －茅葺き学校を通じた外部の声を掲載した、花野邸通信によって、地元の人々の茅葺き学校の活動への理解が向上している
  - －地元の人やてまがい人材を対象とした、花野邸交流会を開催し、多様な主体の交流ができている

目指す未来  
からの逆算

## 2018年度末 地域の状態

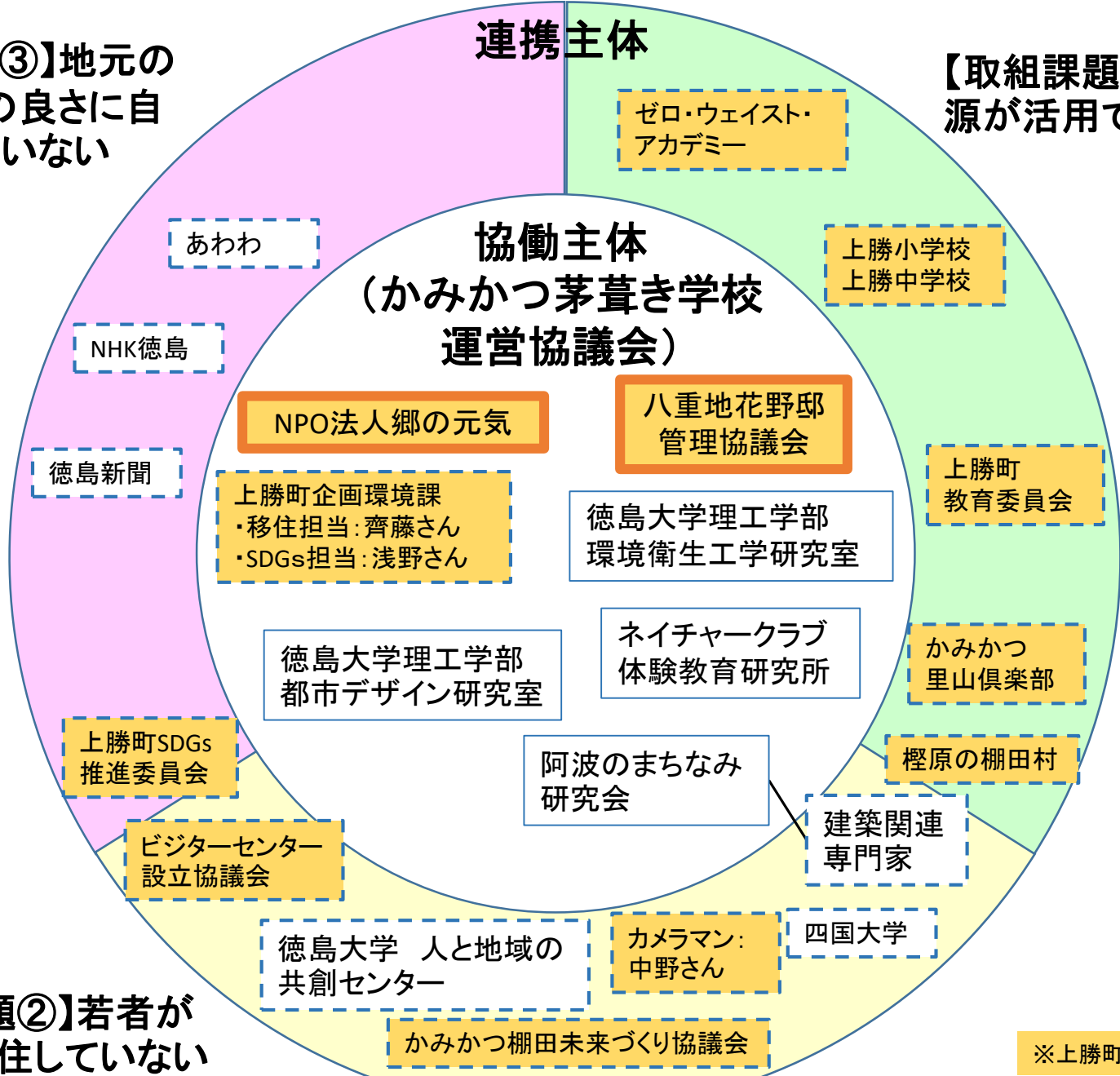
- 山離れと里地・里山環境の消失
  - －茅葺き民家の屋根修復に利用する茅を収穫するため、土地所有者である住民や役場の協力を得て、集落内の未利用棚田や、高丸山の未利用土捨て場が茅場として整備された
- 集落の担い手が不足している
  - －茅葺き予備校を通して若者が集落に訪れた
  - －茅葺き予備校を通して、上勝町内の若者ステークホルダーの参加を得ることができた。
- 伝統的な技術や知恵の消失
  - －縄ない、火おこし、差し茅など、地元住民が講師となり、参加者に教えた
  - －花野邸の建築学的価値の調査により、価値が明らかになり、教材のもとができた。
  - －茅葺き学校の取組が、徳島新聞や、上勝町内の若者ステークホルダーのWEBマガジンに掲載された

目指す未来  
からの逆算

## ② 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）

【取組課題③】地元の人が地域の良さに自信を持っていない

【取組課題①】山の資源が活用できていない



【取組課題②】若者が集落に居住していない

### ③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】</p> <p>・山の資源が活用できていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い親子をターゲットとして「茅葺き学校」を年間8回開催し、若い親子のリピーターを獲得する。</li> <li>・「茅葺き学校」の実践をとおして、体験のプログラム内容や安全面の質を向上し、ふさわしい利用料金を徴収できるようにする。</li> <li>・「茅葺き学校」において、ゼロ・ウェイストな暮らし体験ができるようになっていく。</li> <li>・徳島大学環境衛生工学研究室やネイチャークラブ体験教育研究所と連携し、授業単元をサポートする学校教育プログラムを検討し、教育委員会を通して小中学校へ情報提供ができていく。</li> <li>・阿波のまちなみ研究会と連携し、花野邸の建築学的価値を学ぶプログラムを実施し、茅葺き民家の価値発信を行う。</li> <li>・かみかつ里山倶楽部環境教育部会と連携し、茅葺き学校のプログラムを実施し、利用者層を広げる。</li> <li>・花野邸facebook、上勝町全体の情報発信サイト「まるかみ」での発信を強化し、上勝町内における花野邸および茅葺き学校の認知度を向上させる。</li> </ul>
<p>【取組課題②】</p> <p>・若者が集落に居住していない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の作業支援活動や、花野邸の施設整備活動などを行う、「てまがいプログラム」を実施し、若者をはじめとした幅広い年代が参加している。</li> <li>・集落の作業支援活動としての「てまがいプログラム」は、農作業支援、祭りの支援など、八重地集落からの要望に合わせて行う。</li> <li>・花野邸の施設整備活動としての「てまがいプログラム」は、茅刈り等の茅葺きに関する作業の他に、暮らし体験を実施するための薪割りやコンポストづくりなど、必要に応じて行う。</li> <li>・てまがいプログラムのリピーターが地域住民と交流ができていく。</li> <li>・てまがいプログラムにおいて徳島大学人と地域の共創センターや都市デザイン研究室と連携し、学生等の参加を得る。</li> <li>・てまがいプログラムを通して、榎原の棚田村と交流ができ、活動が波及している。</li> <li>・棚田未来づくり協議会（棚田4地区を核とした集落居住を目的とする協議会）と連携した活動を行い、双方が活性化される。</li> <li>・花野邸において居住体験できるよう施設整備を進め、上勝町移住担当者と連携し、上勝町役場からの情報発信ができていく。</li> </ul>
<p>【取組課題③】</p> <p>・地元の人が地域の良さに自信を持っていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花野邸通信を集落および町内全域に配布することにより、茅葺き学校の活動と、茅葺き学校を通じた外部の声や、地元の人に伝わっている。</li> <li>・地元の人と茅葺き学校関係者、てまがい人材等との花野邸交流会を開催し、茅葺き学校を通じた人と人の信頼関係が構築されている。</li> <li>・茅葺き学校の活動がマスコミ等からの外部評価を得ている。</li> <li>・プロのカメラマンによる茅葺き学校の活動や八重地集落の写真をアルバムにし、地域住民に見ていただき、写真を通して改めて地域の良さに気づいてもらう。</li> </ul>

# ④ 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			協議会		連絡会		協議会		連絡会	協議会	全国報告会	
		月次報告	月次報告	月次報告	月次報告	月次報告	月次報告	月次報告	月次報告	月次報告	月次報告	月次報告
【取組課題①】 ・山の資源が活用できていない		<p>●茅葺き学校・実践活動(暮らしの知恵、技術の伝承)</p> <p>5/12① 田植えと里のめぐみごはん</p> <p>6/8② 昔のこども遊び・どべ釣り体験</p> <p>8/3③ 流しそうめんと里山あそび</p> <p>9/28④ 稲刈りと里のめぐみごはん</p> <p>10/26⑤ 郷の香り・ゆずしぼりとかきまぜ</p> <p>11/30⑥ 高丸山で茅場体験と里のめぐみごはん</p> <p>12/21⑦ 餅つきとしめ縄づくり</p> <p>1/18⑧ 山のめぐみでつくるほうきとたわし</p>										
		<p>●茅葺き学校・冊子作成(暮らしの知恵、技術の伝承)</p>										
【取組課題②】 ・若者が集落に住居していない		<p>花野邸周辺整備</p> <p>茅刈り</p> <p>草刈り</p> <p>稲刈り</p> <p>ゆず採り</p>										
【取組課題③】 ・地元の人が地域の良さに自信を持っていない			花野邸通信		花野邸通信		花野邸通信		花野邸通信		花野邸通信	
				花野交流会			花野交流会					

### ⑤ 2カ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の到達目標の変更 (取組課題①について)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業では、「山離れと里地・里山環境の消失」を取組課題としていたが、地域課題の同時解決に結びつかないことに気付き、改めて将来像についてWSで検討し、「今まで上勝の人がしてきたような、山に生かされる暮らし、山を守る暮らしを次世代につないでいきたい」との意見により、「山の資源活用」を目標とした。今年度、目標に向かう取組を検討する中で、「山の資源」の対象を明確にしたほうがよいとの意見があり、「山の資源」の対象をWSで抽出し、その中から、茅葺き学校で実現する目標として山菜やジビエ等の「恵みの食」と山の資源を材料に知恵と手間で作出す「循環の暮らし」の体験と発信にすることが決定した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の到達目標の変更 (取組課題②について)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業では、「集落の担い手が不足している」を取組課題としていたが、将来像のWS検討における「若い人が集落に入り、仕事で収入を得て、子育てができる」との意見により、目標を「若者が集落に居住する」とした。</li> <li>「若者が集落に居住する」に向け、まずは、集落のいろいろな活動に参加し、地域住民との信頼関係を構築できる協働人口を獲得することを令和元年の目標とした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の到達目標の変更 (取組課題③について)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業では、「伝統的な技術や知恵の消失」を取組課題としていたが、WSにおける「地域住民が価値に気付いていない」との意見により、目標を「地域住民が地域の良さに自信を持つ」とした。</li> <li>「地域の良さに自信を持つ」に向け、まずは、地域の価値の理解を向上させることを令和元年の目標とした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>取組のアイデアの変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度は「茅葺き予備校」を開催し、外部からの参加者に対するアプローチを中心に行っていたが、今年度は、集落内部に対し、茅葺き学校を通じた地域の価値の理解向上にも取り組む。</li> <li>地域住民が茅葺き学校を通して、集落外の人材との交流が活性化するよう取り組む。</li> </ul>

## ⑥ その他補足事項

### ■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ 集落が高齢化しており、茅葺き学校の取組みへの参加が困難になりつつある。（高齢化率80%）
- ・ 早急に、集落の知恵や技術を記録し、次世代が担えるよう、人材育成を進める必要がある。

### ■ その他、留意事項などがあればお書きください

・